

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 6月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5 (電話) 082-230-3030		
自己評価作成日	令和元年5月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年6月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設時より、利用者様の「笑顔」を大切に支援を続けている。苑内はいつも明るく笑い声が絶えず聞こえ、職員との冗談が飛びかう毎日が続いている。認知症も入所された頃より改善される方が多く見られ、穏やかに過ごされている。食事は、三食すべて手作りで温かいもの、冷たいものを適切に提供し、健康の維持に努めている。お一人お一人の思いにしっかり耳を傾け、希望に沿うよう常にアンテナを張り、日々の業務に当たっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR安芸長東駅から賑やかな商店街を約10分位歩き、通りを少し入ると住宅が立ち並ぶ静かな環境の中に同事業所がある。職員は認知症ケアに対しての基本がしっかりしており、管理者の下、理念でもある「真心と笑顔」を大切にチームケアが行われている。また運営法人は、職員が働きやすい様に様々な場面でバックアップしている。家族とも良好な関係にあり、運営推進会議も家族が核となり、地域も協力的である。地域との関係は、年間を通して朝夕の挨拶や、イベント等を通じて信頼関係が構築されている。管理者と職員は、今後も利用者や地域住民と、更なる関係づくりを目指し努力している。

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝、申し送り時に理念である「私達は、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」を唱和し、常に理念に添ったケアが提供できるように努めている。	法人理念にある「真心と笑顔」の下、支援に取り組んでいる。職員はその人に添ったサービスを心掛け、理念を共有し実践に繋げるよう努力している。また法人の研修や朝の申し送り時に話し合い、更なるサービスの向上に繋げる努力がされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域行事(運動会・ソーメン流し・ハロウィン)にも参加し、地域の一員として関わりを深め、良好な関係を築いている。又、地域の小学生による町探検や近隣の大学生による音楽療法を受け入れたりと異年齢の方とも積極的に交流している。	日常的な挨拶は基より、町内の回覧版等で地域の情報は分かりやすく、地域行事には出来る限り参加し、付き合いの幅が広がっている。また近隣の小学2年生の生徒が年に1度「町探検」の授業で事業所を訪れ、利用者は交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議には、必ず民生委員や町内会長に来苑して頂き、認知症の方々の理解や支援方法を説明している。年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方に気軽に相談できる環境作りに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、必ず知見を有する方をゲストでお招きし、講演して頂き、心のお土産としている。苑でも「腸を動かす健康体操」「口臭予防について」など日々のケアに活用している。	会議は2か月に1回定期的に行われている。参加者は必要な関係者と家族(数家族が交代)が出席している。会議の内容は毎回ミニ講習会を開催し、併せて取り組み状況や報告等、様々な意見交換を行いながら、更なるサービスの向上に努めている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターに出席して頂き、施設の状況やケアを報告し、アドバイスを頂いている。	日頃から市町とは協力関係(出前講座等)を築く努力はされている。管理者は認知症アドバイザーとして、地域包括センターより依頼を受け、他のアドバイザーと共に地域に出掛け、寸劇等を行い市町と連携を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通して身体拘束をしないケアを理解し、実践に努めている。エアコンが要らない時期は、玄関や窓は無施錠としている。	安全を確保し見守り重視で、日頃より支援に努めている。身体拘束は勿論、言葉の拘束も職員は平素から気を付けている。研修は年2回行われ職員は、其々のチェックリストに気付きを書き込み、更に管理者がコメントを入れ、共に確認しながら取り組んでいる。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月、スタッフ会議では、「虐待の目チェックリスト」を記入し、自分自身のケアについて見直している。身体拘束適正化委員会を設置し、虐待防止の徹底を図っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月行うスタッフ会議は、1年間のスケジュールを計画的に組み込み、職員に対して研修している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、十分な時間を取り、分かりやすく説明を行う事を心掛け、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、必ず家族様に声を掛け、利用者様の支援方法・現状を報告・相談している。又、利用者様からの要望も叶えられるように努力している。	家族が来所時に意見を聞く機会を設けているが、要望は余り出ない。事業所は運営推進会議を利用したり、担当者から定期的に電話等で、身近な出来事を知らせる努力はされており、事業所は家族の意見を反映させるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員からの意見を聞き、運営に役立てている。管理者は、普段から積極的に職員と関わりを持ち、何でも話せる関係作りに努めている。	働きやすい環境は整っている。職員からの意見は会議の場のみでは無く様々な場面でを行っている。また業務改善等は常に意見を聞く体制はある。例えばケアの優先順位を工夫したり、イベント企画の提案を話し合う等、事業所は必要に応じて反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、常に職員の勤務態度に関心を持ち、給与や賞与にその努力を反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者の職員一人一人のケアや力量を把握し、それに応じた必要な研修を受講できるよう配慮している。研修参加後は、全職員に周知できるように毎月のスタッフ会議で説明させ、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括が行う地域の同業者に対する勉強会等に積極的に参加を促し、交流する機会を持たせている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前又は入所時は、本人様と面談を行い、不安な要望があれば納得して頂くまで傾聴し、安心して生活できるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なく入所して頂けるよう入所前に電話・面談等で話を伺う機会を多く持ち、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「ADL」「思い」を的確に把握し、その都度今のケアのままで良いのか他職種で相談し、一番適切なサービスを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、食器洗い・洗濯たたみ・床の掃き掃除などを利用者様自身が率先して行っておられ、暮らしをともにするもの同士の関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の日頃の様子を面会時や電話にて報告し、問題等が起きた際には、家族様にも相談しながら一緒に問題解決に努めるなど、共に本人を支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・近所の付き合いのあった方の来苑もあり、利用者様も喜んでおられる。又、ご家族の協力もあり、入所前によく行かれていたお店に定期的に出かけられ、なじみの関係が途切れないよう支援している。	職員は利用者の毎日の生活を通して、本人が希望することを把握し関係継続の支援に努めている。例えば家族と共に食事に出掛けたり、盆や正月に自宅に外出等している。また地域住民のボランティアが三味線や三線を奏でる為に訪れている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者様同士は隣席にすることで悩みことを相談したり、時に励まし合われたりと利用者様同士が共に支えながら生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談・援助させて頂くことを口頭で伝え、安心させている。逝去されて退所となった利用者様の家族も時折、来苑されることもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の普通の会話の中で、本人がどのように暮らしたいと考えているか聞くようにしている。困難な場合は、表情を汲み取り、本人の意思の把握に努めている。	平素より職員は連携を取り、出来る限り思いや暮らし方が実現出来る様、情報を共有し支援に取り組んでいる。利用者の希望の把握が困難な場合、職員は話し合い、検討を重ね希望に応えられるよう支援体制を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、ご家族へ聞き取り調査を行い、入所前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の状況を毎日の申し送りで報告しあい、記録に残し、全職員が情報を共有できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様・ご家族様の意向と多職種の意見を汲み入れ、本人様の現状に即したケアプランになるよう工夫しながら作成している。	モニタリングは3ヶ月に1回、本人、家族の意見を核に、職員からは日々の暮らしぶりを参考に、必要な関係者が現状に即した計画を作成している。状態の変化がある場合は、評価、見直しを行う。また介護計画は誰が見ても分かり易く記入する様心掛けている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を毎日記入するとともに毎日出勤した職員は、申し送り時、利用者様の気づきを述べ、情報の共有と介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に本人様の思いに耳を傾け、本人様の希望を叶えるよう柔軟なサービスの支援に努めている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入し、自治会だよりを確認しながら「運動会」「子どもみこし」に参加し、色々な方と触れ合いながら楽しみ・充実した生活を送る事ができるように支援している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回。必要時・緊急時は、常にかかりつけ医と連絡が取れる体制が整っている。又、清潔な口腔内を保つ為、個別に歯科往診を行って頂いている。ともにそれぞれが良好な関係を築けている。	事業所のかかりつけ医（内科）が、月2回もしくは必要時往診がある。事業所の協力医は24時間オンコールで管理者と共に対応している。職員の看護師も平素より共に支援し、薬剤師との連携も確保されている。また必要に応じて他科への受診も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや日常業務の中で小さな変化があれば、すぐに看護師に相談し、緊急度合いによっては、受診や往診を依頼している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より、入院する病院との連携がとられ、苑からも情報提供を行い、安心して治療が行える体制を整えている。入院中も病院を訪問したり、電話にて情報交換・相談を行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともにその時がきた利用者様は、ご家族・かかりつけ医・介護職員・ケアマネジャーが十分に話し合いを行い、チームで連携している。看取り希望が多く、何度も看取っている。	法人の方針で出来る限りの看取りを行っている。入居時に家族に説明を行い、重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示の下チームで支援している。職員の多くは看取り経験が豊富で、事業所の方針に従い積極的に支援に取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるように定期的に学んでいる。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は、月1回利用者様とともに必ず行い、夜間での訓練も夜勤者全員が行うようにしている。災害発生時には、一時避難場所として地域の方に呼びかけ、地域との協力体制も出来ている。3日分の食料の備蓄・炊き出し用のプロパンガス・簡易トイレを準備している。	月に1度の割合で利用者と共に避難訓練を行っている。事業所は一次避難場所として地域に提供し、町内の自主防災に加入しており、ハザードマップ等で位置や危険性を確認しながら、有事の時の協力体制を整えている。備蓄も(食料品や用品)確保している。	



自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を用いながら1ヶ月の業務を振り返り、日々の業務を見直すきっかけ作りとなっている。	理念、接遇の研修は行われている。職員は日頃より利用者一人ひとりに、もしも自分だったらを問いかけ接している。また「虐待の芽チェックリスト」を活用し、改善しながら支援に取り組んでいる。言葉かけも話始めや話の締めくくりは特に大切にし、その人の人格を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人様が思いや希望をお聞きし、実行できるように努めている。又、利用者様のお誕生日会の日には、本人様の要望が叶えられる努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床・就寝前・食事時間など、利用者様の状況によって個別に対応し、その人らしく1日を過ごせるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容に来苑して頂いたり、ご希望があれば近所の美容院へ行ったりと自宅でしていたようなおしゃれも楽しんで頂けるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りの食事と見た目にもこだわり、楽しく美味しく食して頂けるよう配慮している。食器の後片付けやお盆ふきなど利用者様にも手伝って頂いている。	日常の食事は三食手作りで、利用者には好評で何より食事環境が和やかで、利用者同士や職員との会話が温もりを感じる。時には外食でファミレスやショッピングモールで、おやつを食べたり買い物を楽しんでいる。高さ調節が出来るテーブルや、姿勢を整えて食事をする等、職員は工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>どの季節も脱水には、気をつけ、1日の摂取量は1500mlと定めている。栄養不足にならないよう残食が目立つ利用者には、好みの味つけに変更したり、代替品を提供するなど工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄に向けて利用者様ごとに排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。おむつの使用量を減らす為にパット委員が中心となり、尿測を行いながら適切なおむつの使用に努めている。</p>	<p>トイレは3か所あり、ファンレストテーブルを備え付けている所もある。職員はパット数の記録を活用しながら、排泄及び排尿パターンを把握し話し合いを重ね、情報を共有しながら支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事・おやつの中で乳酸菌や繊維質のものを多く取り入れたり、1日1500ml水分を摂取するよう定めている。又、ラジオ体操・柔軟体操・腸トレ体操などの運動を毎日取り入れ、便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お好きな時間には、入浴できていないが職員と利用者様が1対1でゆっくり会話を楽しめる大切な時間ととられ、楽しく入浴できる環境づくりに心がけている。入浴拒否される方には、相性の良い職員が対応するなど少しでも気持ちよく入浴できるよう工夫している。</p>	<p>入浴をゆっくり楽しんで貰うために、入浴環境に気配りを行い、例えば入浴時好きな話題を話したり、リフトは出来るだけ使わず、二人体制で入浴を支援している。シャンプー等は皮膚の弱い利用者へ添った対応を行い、個々に応じた入浴を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>前日の夜間の睡眠時間に合わせて、日中の休息時間を工夫しています。夜間も眠られない時は、無理強いせず、利用者様のペースに合わせて支援に心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤師と看護師で連携を取り、薬の飲み合わせや副作用について説明し、理解に努めている。症状に変化があれば、看護師に報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>1日を楽しく、役割を持ちながら充実した生活を送って頂くことを考えながらそれぞれの能力に応じて無理なく、楽しいと感じて頂ける支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、苑外散歩を基本とし、草花などの外の景色を通じて季節を感じ、気分転換を図れるようにしている。紅葉狩り・花見の時期は、いつもより距離を伸ばしている。又、希望があれば、ドライブや外食にも出かけている。</p>	<p>職員の外出支援に対する意識は高い。、利用者は日頃は職員と共に近所に買い物や散歩に出掛けたりもしている。また普段行けない場所には、季節に応じてドライブを楽しむ等支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在、入所させておられる方で、金銭管理できる方はおられない為、事務所で保管し、必要時使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自分から手紙を出されることはないが、届いた手紙は、本人様に手渡しています。電話をかけたいと希望があれば、その都度、苑の電話を使用して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関前には、いつも季節の花を飾り、ユニット毎で季節に合わせたカレンダー・壁画を作成し、四季を感じて頂けるように工夫している。こまめに換気したり、常に外の景色を見る事ができるようにカーテンをあけたりなど閉鎖的にならないようにしている。</p>	<p>多くの時間を過ごすリビングは、窓からは季節の風が通り抜ける。室内のレイアウトはどこに居ても利用者が見渡せ、ベランダもいつもドアが開放されており、自由に行き来でき居心地よい暮らしぶりがある。職員は利用者が思い通りに暮らせる様支援に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者様の個々の思いを尊重しながら支援している。一人になりたいときは、居室に誘導したり、仲良しの利用者様と過ごしたい時は、隣席にしたりと都度状況もあわせて対応している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、使い慣れた家具や家族の写真を飾って頂いたりとそれぞれが思い出につながるものを配置し、利用者様にとって居室が居心地の良いものとなる工夫に努めている。</p>	<p>居室は備え付けのチェストやベットが、各々好きな配置で使用されている。窓は大きめで壁の色も明るい色に統一されている。利用者は各々思い出の写真や手作品を飾っている。また広々とした廊下は出入りがし易い造りになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保した設計にしている。</p>		

V アウトカム項目(東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に理念である「私達は、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」を唱和し、常に理念に添ったケアが提供できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域行事（運動会・ソーメン流し・ハロウィン）にも参加し、地域の一員として関わりを深め、良好な関係を築いている。又、地域の小学生による町探検や近隣の大学生による音楽療法を受け入れたりと異年齢の方とも積極的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議には、必ず民生委員や町内会長に来苑して頂き、認知症の方々の理解や支援方法を説明している。年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方に気軽に相談できる環境作りに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、必ず知見を有する方をゲストでお招きし、講演して頂き、心のお土産としている。苑でも「腸を動かす健康体操」「口臭予防について」など日々のケアに活用している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターに出席して頂き、施設の状況やケアを報告し、アドバイスを頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を通して身体拘束をしないケアを理解し、実践に努めている。エアコンが要らない時期は、玄関や窓は無施錠としている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月、スタッフ会議では、「虐待の目チェックリスト」を記入し、自分自身のケアについて見直している。身体拘束適正化委員会を設置し、虐待防止の徹底を図っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月行うスタッフ会議は、1年間のスケジュールを計画的に組み込み、職員に対して研修している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、十分な時間を取り、分かりやすく説明を行う事を心掛け、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、必ず家族様に声を掛け、利用者様の支援方法・現状を報告・相談している。又、利用者様からの要望も叶えられるように努力している。		



自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員からの意見を聞き、運営に役立てている。管理者は、普段から積極的に職員と関わりを持ち、何でも話せる関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、常に職員の勤務態度に関心を持ち、給与や賞与にその努力を反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者の職員一人一人のケアや力量を把握し、それに応じた必要な研修を受講できるよう配慮している。研修参加後は、全職員に周知できるように毎月のスタッフ会議で説明させ、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括が行う地域の同業者に対する勉強会等に積極的に参加を促し、交流する機会を持たせている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前又は入所時は、本人様と面談を行い、不安な要望があれば納得して頂くまで傾聴し、安心して生活できるよう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	不安なく入所して頂けるよう入所前に電話・面談等で話を伺う機会を多く持ち、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「ADL」「思い」を的確に把握し、その都度今のケアのままで良いのか他職種で相談し、一番適切なサービスを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、食器洗い・洗濯たたみ・床の掃き掃除などを利用者様自身が率先して行っておられ、暮らしをともにするもの同士の関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の日頃の様子を面会時や電話にて報告し、問題等が起きた際には、家族様にも相談しながら一緒に問題解決に努めるなど、共に本人を支えていく関係を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・近所の付き合いのあった方の来苑もあり、利用者様も喜んでおられる。又、ご家族の協力もあり、入所前によく行かれていたお店に定期的に出かけられ、なじみの関係が途切れないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者様同士は隣席にすることで悩みことを相談したり、時に励まし合われたりと利用者様同士が共に支えながら生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談・援助させて頂くことを口頭で伝え、安心させている。逝去されて退所となった利用者様の家族も時折、来苑されることもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の普通の会話の中で、本人がどのように暮らしたいと考えているか聞くようにしている。困難な場合は、表情を汲み取り、本人の意思の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、ご家族へ聞き取り調査を行い、入所前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の状況を毎日の申し送りで報告しあい、記録に残し、全職員が情報を共有できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様・ご家族様の意向と多職種の意見を汲み入れ、本人様の現状に即したケアプランになるよう工夫しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を毎日記入するとともに毎日出勤した職員は、申し送り時、利用者様の気づきを述べ、情報の共有と介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に本人様の思いに耳を傾け、本人様の希望を叶えるよう柔軟なサービスの支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入し、自治会だよりを確認しながら「運動会」「子どもみこし」に参加し、色んな方と触れ合いながら楽しみ・充実した生活を送る事ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回。必要時・緊急時は、常にかかりつけ医と連絡が取れる体制が整っている。又、清潔な口腔内を保つ為、個別に歯科往診を行って頂いている。ともにそれぞれが良好な関係を築けている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りや日常業務の中で小さな変化があれば、すぐに看護師に相談し、緊急度合いによっては、受診や往診を依頼している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より、入院する病院との連携がとられ、苑からも情報提供を行い、安心して治療が行える体制を整えている。入院中も病院を訪問したり、電話にて情報交換・相談を行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともにその時がきた利用者様は、ご家族・かかりつけ医・介護職員・ケアマネジャーが十分に話し合いを行い、チームで連携している。看取り希望が多く、何度も看取っている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるように定期的に学んでいる。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は、月1回利用者様とともに必ず行い、夜間での訓練も夜勤者全員が行うようにしている。災害発生時には、一時避難場所として地域の方に呼びかけ、地域との協力体制も出来ている。3日分の食料の備蓄・炊き出し用のプロパンガス・簡易トイレを準備している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を用いながら1ヶ月の業務を振り返り、日々の業務を見直すきっかけ作りとなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人様が思いや希望をお聞きし、実行できるように努めている。又、利用者様のお誕生日会の日には、本人様の要望が叶えられる努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床・就寝前・食事時間など、利用者様の状況によって個別に対応し、その人らしく1日を過ごせるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容に来苑して頂いたり、ご希望があれば近所の美容院へ行ったりと自宅でしていたようなおしゃれも楽しんで頂けるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手作りの食事と見た目にもこだわり、楽しく美味しく食して頂けるよう配慮している。食器の後片付けやお盆ふきなど利用者様にも手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>どの季節も脱水には、気をつけ、1日の摂取量は1500mlと定めている。栄養不足にならないよう残食が目立つ利用者には、好みの味つけに変更したり、代替品を提供するなど工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず職員が仕上げ磨きを行い、清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄に向けて利用者様ごとに排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。おむつの使用量を減らす為にパット委員が中心となり、尿測を行いながら適切なおむつの使用に努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事・おやつの中で乳酸菌や繊維質のものを多く取り入れたり、1日1500ml水分を摂取するよう定めている。又、ラジオ体操・柔軟体操・腸トレ体操などの運動を毎日取り入れ、便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>お好きな時間には、入浴できていないが職員と利用者様が1対1でゆっくり会話を楽しめる大切な時間ととられ、楽しく入浴できる環境づくりに心がけている。入浴拒否される方には、相性の良い職員が対応するなど少しでも気持ちよく入浴できるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	前日の夜間の睡眠時間に合わせ て、日中の休息時間を工夫して います。夜間も眠れない時は、 無理強いせず、利用者様のペ ースに合わせて支援に心がけて いる。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	薬剤師と看護師で連携を取り、 薬の飲み合わせや副作用につ いて説明し、理解に努めてい る。症状に変化があれば、看 護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	1日を楽しく、役割を持ちなが ら充実した生活を送って頂くこ とを考えながらそれぞれの能 力に応じて無理なく、楽しい と感じて頂ける支援をしてい る。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	天気の良い日は、苑外散歩を 基本とし、草花などの外の景色 を通じて季節を感じ、気分転 換を図れるようにしている。 紅葉狩り・花見の時期は、い つもより距離を伸ばしている。 又、希望があれば、ドライブや 外食にも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	現在、入所させておられる方 で、金銭管理できる方はおら れない為、事務所で保管し、 必要時使えるようにしている。		



自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分から手紙を出されることはないが、届いた手紙は、本人様に手渡しています。電話をかけたいと希望があれば、その都度、苑の電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関前には、いつも季節の花を飾り、ユニット毎で季節に合わせたカレンダー・壁画を作成し、四季を感じて頂けるように工夫している。こまめに換気にしたり、常に外の景色を見る事ができるようカーテンをあけたりなど閉鎖的にならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の個々の思いを尊重しながら支援している。一人になりたいときは、居室に誘導したり、仲良しの利用者様と過ごしたい時は、隣席にしたりと都度状況もあわせて対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れた家具や家族の写真を飾って頂いたりそれぞれが思い出につながるものを配置し、利用者様にとって居室が居心地の良いものとなる工夫に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保した設計にしている。		

V アウトカム項目( 西ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長東

作成日 令和元年7月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	新人職員の増加により、苑における介護の質の低下が懸念される	苑における介護の質を一定にする。	目標達成までの速度が同じでない為、必要に応じ個別の研修を行う。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。